会話に見られる「なんか」と文法化：「前置き表現」の「なんか」は単なる口ぐせか？[1]

内田 らら*

Nanka in Ordinary Conversation and Its Grammaticalization: Is *Nanka* Only "a Habit of Saying" to Make Introductory Remarks?

Lala Uchida

In this paper, I examine where *nanka* in ordinary conversations comes from. Here, I take into consideration the relationship between *nanka* and "concept" (Halliday 1994:59) in "information unit" (ibid.). From analysis and discussion, I point out (1) *nanka* is not "a habit of saying" to make introductory remarks, but discourse marker which follows new concepts for hearers and (2) *nanka* is born of metaphorical grammaticalization from pronoun and metonymic one from adverbial particle to discourse marker. Moreover, I make clear the process of grammaticalization concerning *nanka*. That is, *nanka* is derived from pronoun expressing what is unspecified. Later, influenced by adverbial particle, it marks the whole utterances after *nanka* as something vague and is used in order to connect to clear contexts before *nanka*. Then, it is grammaticalized as an expression that implies the speaker's attitude to or judgement on what remains vague after *nanka*.

1．はじめに

[例 1][2] なんか, <Q ドラゴン Q> とかって書いてある.

日本語の日常会話では，例 1 で示したように 1 つの "intonation unit" (Chafe 1994:57) の内部で，あるいは，単独で "intonation unit" (ibid.) を構成する「なんか」の使用が少なからず見られる．ここで，下線部「なんか」は，それまで指摘されている代名詞や副助詞とは異なる用法と考えられるが，いったいどんな意味を持つのだろうか.

これに関連し,『現代用語の基礎知識』(1999 年版) では，「なんか」は前置き表現に使われる単なる口ぐせだと説明されている．しかし，もし単なる口ぐせであるならば，なぜわざわざ「なんか」という言葉を使うのか，また，なぜ「なんか」だけで 1 つの "intonation unit" (Chafe 1994:57) を形成するのか疑問である．そこから，例 1 の「なんか」は，"intonation unit" (ibid.) の定義に対する例外と言うより，代名詞や副助詞の「なんか」と違った機能を持つ言葉として文法化[3]されたと言えないだろうか.

そこで本稿では，日本人同士の自然会話をデータに，Halliday (1994:59) の "information unit" で述べられている concept の枠組をふまえ，会話の中での「なんか」の意味を後続の concept と関連づけて分析する．そして，この「なんか」が何から生じたものか考察する.

2. 先行研究

2.1. Intonation Unit

Chafe (1987, 1994) は，会話でひと息に言い切れる発話を 1 単位にした "intonation unit" (1994:57) を提唱し，それで対象物，出来事，特性などの "concept" (1987:32) が伝えられると指摘した．そして，"concept" (ibid.) を，given (既に共有している情報)，accessible (共有しかけている情報)，new (全く新しい情報) の 3 種類に分類した.

ここで彼は，"concept" (ibid.) の対象を単語レベル，それも名詞に限定しているが，実際の会話を分析すると，対象物，出来事，特性は，必ずしも名詞だけ

*東京工芸大学工学部基礎教育研究センター非常勤講師
2001 年 9 月 4 日 受理

で伝えられるものではないことがわかる.

このことに関連し, Halliday (1994:59) は "information unit" を提起している. これは, "intonation unit" (Chafe 1994:57) に相当する "tone group" (Halliday 1994:59) から構築される情報の 1 単位で, 1 つの節が複数の "information unit" (ibid.) になったり, あるいは 1 つの "information unit" (ibid.) に複数の節が含まれたりするものである. そして彼は, "information unit" (ibid.) を given (聞き手に既に知られている情報) と new (前に言及されたか否かに関わらず, 聞き手にとって新しいもの, 予期できないもの, 重要なものとして注目させる情報) に分類している.

本稿では, Halliday (1994:59) の "information unit" をふまえ, "concept" (Chafe 1987:32) には, 名詞に加え1つの節や複数の節などの命題も含むものと定義する. また, 一貫した話題の中で全くの新情報は出にくいと思われるので, Halliday (1994) に従い, new の意味には, 過去に話された情報でも今までと違った角度から言及されていればそれも含むことにする.

2.2. 「なんか」

2.2.1. 代名詞「なんか」

はじめに, 代名詞の「なんか」は,『日本国語大辞典』(第 15 巻:286) によると, 古くは奈良時代中期 (720 年) に編纂された『日本書紀』の例のように, 不特定のものを指示する疑問反語表現として使われていた.

(1) 今城なる小山が上に雲だにも著しく立たば那爾柯 (ナニカ) 嘆かむ
(『日本書紀』 斉明四年五月・歌謡)

次に,『宇治拾遺物語』(1221 年) での例に代表されるように, 鎌倉時代中期頃から「明確には指定できないが, 確かに存在する, または存在しうる事物や事態」(『日本国語大辞典』第 15 巻:286) も示すようになった.

(2) いかにかくはあつまる. なにかあらん様のあるにこそ, あやしきことかな
(『宇治拾遺物語』 十一・六)

さらに, 室町時代中期の狂言や江戸時代中期の洒落本や黄表紙に, 代名詞「なんか」の「ある事物や事態を指定しえないまま, しかるべき言葉を模索する気持ち」(『日本国語大辞典』第 15 巻:286) を表す用法が見られる.

(3) なにか文福茶屋で, 剣菱をのむというやうな声がきこへた
(黄表紙『文武二道万石通・上』)

そして現代は, (4) のように「どのものということが特に決まって (分かって) いないこと」(『新明解国語辞典』第 3 版:865) を意味している.

(4) なんか冷たいものが飲みたい (ibid.)

以上の歴史的変遷から, 代名詞「なんか」には,「不特定のものを指示する」というもとの意味が代表的なものとして現代の意味にも残されていることがわかる.

2.2.2. 副助詞「なんか」

次に, 副助詞の「なんか」であるが,『日本国語大辞典』(第 15 巻:371) によると, その語源には代名詞「なんか」が持つ「不確定な指定」の意味が含まれている. そこから, 副助詞「なんか」は代名詞から派生したものと考えることができる.

そして, 明治時代中期から末期の作品に副助詞「なんか」の使用が見られる. ここでは「類例を例示または暗示しつつ代表としてさし示す」(『日本国語大辞典』第 15 巻:371) という意味である.

(5) 詞づかいなんかが, どことなく品がいい
(伊藤左千夫 『姪子』)

また, (5) と同じかそれより少し遅れた頃に,「ある事物を取り立てて例示するが価値的に低いものとして取り立てる」という意味が出てきた.

(6) うちなんかいくら大きくたって腹の足しになるもんか
(夏目漱石 『吾輩は猫である』)

そして現代語では,「例示」がそのまま残され,「それだけに限らないが，という気持ちをこめて，例示する」(『新明解国語辞典』第 3 版:864) ことを表している.

(7) ぼくなんか (= ぼくのようなつまらない者) には出来ない (ibid.)

2.2.3. 前置き表現「なんか」

一方，前置き表現の「なんか」については，以下の 3 つの研究があげられる．はじめに,『現代用語の基礎知識』(1999 年版) で,「なんか」は口ぐせの前置き表現として説明されており，本稿の例 1 もその一例である．しかしこの説明は，代名詞や副助詞についての辞書的な意味と関連づけられておらず，なぜ「なんか」という言葉が前置き表現になるのかを解明するものではない.

次に，田窪・金水 (1997) は,「なんか」を指示機能のない言い淀みの感動詞と分類し,「だいたいこんな感じ」という「心的状態」に対応する形式になっていると述べた．しかしこの研究では，具体的な検証や詳しい説明が行われていないため，前置き表現「なんか」の機能はおろか，代名詞や副助詞との関係，あるいは「なんか」が前置き表現になる理由も明らかにされていない.

また，鈴木 (2000:76) では,「なんか」が持つ 3 つの機能[4]のうち，語用論的機能 (参与者が共有する否定的意見の暗示など，発話内容や発話者の態度を曖昧にするメタメッセージを聞き手に伝える) と談話調整機能 (新しい話題の導入を示すなどして，円滑なコミュニケーションを促進する) が，これまで言われてきた辞書的意味と異なり，不確実性や不特定性を表す「なんか」の本質的な機能から派生したことを事例と共に主張した．この研究は，代名詞や副助詞との関係，あるいは前置き表現「なんか」の具体的な機能について示唆を与えてくれるが，それでも，なぜ「なんか」が前置き表現になるのかに関する答えは見いだされていない.

3. 仮説

先行研究での辞書的な意味と会話での「なんか」の使用状況を考慮し，本稿では以下の仮説を掲げる.

仮説：現代日本語の会話に見られる，代名詞や副助詞と異なった「なんか」は，後ろに聞き手にとって新しい事柄 (new concept) を伴う前置きのディスコースマーカーである.

なお,ディスコースマーカーについては，Onodera (1995:395) の「その時点で話される命題に対する話し手の判断や態度，あるいは，会話を維持する際の話し手による行為を表すもの」という定義に従う.

4. データ

本論文では，10 種類の日本人同士の自然会話をオーディオテープに録音し，はじめの 1 分間を使用した[5]．そして，"intonation unit" (Chafe 1994:57) にもとづいて書き起こし,「なんか」の頻度と機能を分析した.

5. 分析

5.1. 量的分析

はじめに，先行研究で示した代名詞，副助詞，前置き表現という 3 種類の「なんか」が本稿でどのような頻度で現われているのか表に示す.

用法	頻度
代名詞	15 (15.5%)
副助詞	7 (7.2%)
前置き表現	75 (77.3%)
合計	97 (100 %)

表 1: 「なんか」の用法と数的分布

表 1 から，本データでは，代名詞や副助詞よりも前置き表現の「なんか」が多く用いられ，全体の 77.3 % を占めていることがわかる．ここで，Thompson and Mülac (1991) などによる「頻繁に使われる用法が文法として定着していく」という文法化に関する指摘に従えば，前置き表現は口ぐせではなく，1 つの文法要素として確立していると言える.

次に，表 2 で前置き表現「なんか」に続く文法要素とその頻度を示した．

文法要素	頻度
単語	28 (37.3%)
名詞	20 (26.7%)
その他	8 (10.6%)
命題（節など）	**47 (62.7%)**
合計	75 (100 %)

表 2: 前置き表現「なんか」に続く文法要素と数的分布

ここでは，前置き表現「なんか」には名詞に限らずむしろ命題の方が多く続き，全体の 62.7 %にあたることが示されている．

さらに，前置き表現「なんか」を，会話の中で使われている場所と「なんか」の前後に来る事柄が示す内容を考慮して，「話題開始」「話題の発展」「発話内容の具体化」「次の部分へのつなぎ」「引用」「話題対象への評価」の 6 つの機能に分類した．表 3 は，それぞれの機能の頻度を示したものである．

機能	頻度
話題開始	7 (9.3%)
話題の発展	10 (13.3%)
発話内容の具体化	**24 (32.1%)**
次の部分へのつなぎ	13 (17.3%)
引用	16 (21.3%)
話題対象への評価	5 (6.7%)
合計	75 (100 %)

表 3: 前置き表現「なんか」の機能と数的分布

この表から，本データでは「発話内容の具体化」の機能が 24 と最も多く，「引用」(16) が次に多く見られることがわかる．

次項では，代名詞・副助詞・前置き表現の「なんか」が持つ機能について具体例と共に説明する．

5.2. 「なんか」の品詞と機能

5.2.1. 代名詞

例 2 は，代名詞の「なんか」を含む会話例である．

[例 2] (Letters)

01 Y: あたしもそう=だよ．
02 ... 書けないもん，
03 [ちゃんと]
04 H: [うん]．
→05 Y: なんか見ないと，
06 ... 拝啓とか．
07 H: そんなの絶対書いたことないもん，あたし．

この例では，目上の人へのお礼といった形式的な手紙を書くには，見本やマニュアルなどがないとできないことが話題になっている．Y (05)「なんか」は，見本やマニュアルなど指示内容は複数あるが，そのうちのどれなのか特に決まっていないことを表す代名詞と説明できる．

5.2.2. 副助詞

続いて，例 3 で副助詞の「なんか」をとりあげる．

[例 3] (Australia)

01 F: 16 日からオーストラリア行くんだ．
02 S: いいなあ=．
03 M: どこらへんに行くの?
04 F: ..ケアンズとシドニー．
05 A: オーストラリアって，
06 景色もいいし，
07 見る所もたくさんあって，
08 いいよね=．
09 あたし，4 回も行っちゃった．
10 S: 4 回?
→11 私なんか 1 回も行ったことないよ=．

ここでは，F が近々オーストラリア旅行に行くことが話題になっている．S (11)「なんか」は，A (09)「4 回も行っちゃった」を受け，自分はオーストラリアに 1 回も行ったことがないと伝えるために，A と対比させ，「私」と，自らを際立たせる取り立ての副助詞だと考えられる．

5.2.3. 前置き表現

5.2.3.1. 話題開始

最初に，前置き表現の「なんか」が話題開始に用いられる例を見てみよう．

[例 4] (Suspicious Experience)

01 E:お金恵んでくれ系と言えば,
02 C:うん.
→03 E:なんか，イギリス行った時に,
04 C:うん.
05 E:友達と 2 人で行ったんだけど,
06 C:うん.

ここでは，直前の会話で話題に出たと思われる「お金恵んでくれ系」の話に関連して，E が友人と 2 人でイギリス旅行に行ったエピソードが展開されている．E (03) の「なんか」は，そこから「自分のエピソード」という新しいコンテクストを持つ話題が始まることを相手に示す前置き表現と言える．

5.2.3.2. 話題の発展

続いて，話題の発展を表す「なんか」の例を示す．

[例 5] (Letters)

01 H: ...こないだ，ドラえもん ん- 葉書に,
02 ちっ=ちゃい字でいっぱい書いて
@あったから
@ [@@ @@ @@].
03 Y: [出したの?
04 おじいちゃんに?
05 読めないってそんなの @@].
06 H: [@@].
07 Y: [ちいさかったら].
08 H: [@@].
09 Y: [こんなんなっちゃうよ].
10 H: [@ XX @].
11 @ 虫眼鏡とかで見て @.
12 Y: そう=だよ.
13 H: なんかさ,
14 Y: うん
→15 H: なんか,
16 手紙,
17 だと=,
18 Y: うん.
19 H: なんかさ，可愛い封筒とかしかないじゃん,
便せん[とかって,
20 持ってないから=].
21 Y: [うん．うん．うん．うん．うん.]

例 5 では，年輩の先生に書状を書くことが話題になっている．H (15)「なんか」は，それまでの「絵入りの葉書に小さい字を敷き詰めて先生に送ったこと」という話題のうち，「葉書」との関連性を保ちつつ，「手紙の場合は」と，「書状を送る」コンテクストのうち新たな部分を際立たせて話題を発展させる前置き表現と説明できる．

5.2.3.3. 発話内容の具体化

例 6 は，発話内容の具体化を示すものである．

[例 6] (Junior High School)

01 H: 馬鹿みたいなこと，ここに書いてあるよ.
02 I: それ，誰の?
03 K: @@@
04 H: わからない.
05 R: 入ってたの?
06 ...のっかってた?
→07 H: なんか，<Q ドラゴン Q> とかって書いてある.
08 I: わけわからない.

この例は，机の上に置かれたノートを話題にしている．H (07)「なんか」は，I (02)「それ，誰の？」から R (06)「のっかってた？」でのノートの持ち主やそれがあった場所ではなく，H (01)「馬鹿みたいなこと」の具体的な内容を導く前置き表現と考えられる．これは，前の発話から直接予測できないという意味で，「馬鹿みたいなこと」のうち新しい側面に焦点をあてたものと言える．

5.2.3.4. 次の部分へのつなぎ

次に，同じ文中で次の部分につなぐ機能を例示する．

[例 7] (Letters)

01 H: なんか,
02 手紙.
03 だと=,
04 Y: うん.
→05 H: なんかさ, 可愛い封筒とかしかないじゃん,
便せんとかって.
06 持ってないから=.

例 7 は例 5 の一部だが, H (05)「なんか」は,「手紙だと, 便せんを持っていないから可愛い封筒を使わなくてはならないことになる」という H の話の途中に置かれている. この「なんか」は,「手紙だと」と言った後に, 自分が文として完成させようとしている「可愛い封筒しかない」という部分を, 文としての一貫性を守りつつ, これまで話していなかった新しい事柄として取り立て, 相手に対し, 新しい事柄が後に続くことを暗に示すつなぎの前置き表現であると説明できる.

5.2.3.5. 引用

例 8 は, 引用を示す例である.

[例 8] (A Party with Ojin)

01 A: なんかね, はじまり [は=],
02 M: [う=ん].
03 A: なんか, 私の=,
04 バイト先の=,
05 後輩の子が,
→06 なんか, <Q 公務員と.
07 ..合コンするのですよ=, Q>
08 って言うから行ったのね.

ここでは, A が何をきっかけに合コンの情報を知り参加したのかが話題になっている. A (06)「なんか」は, A (08)「って言うから」とあるように, 後輩の言葉からの引用を導く前置き表現だと言える. ここで,「なんか」で引用を導いたのは, 他者の発話を自分のものとして扱わず, 前の話の内容からは予測できない「新しい」情報として取り立てたことによると考えられる.

5.2.3.6. 話題対象への評価

そして, 話題対象への評価を示す例をあげる.

[例 9] (A Party with Ojin)

01 A: さおちゃんとか誘って=.
02 その, うえのさんの=,
03 友達を連れてきたら.
04 なんかね, <@ やっぱり= @>,
05 @@ [@@@@@]
06 M: [なに=]
07 S: [おじさま].
08 A: おじさまだったの= 30 才なんだけど=.
→09 S: なんかね=,
10 ..感じ悪いの.
11 A: なんかね=.
12 例えば私がね=,
13 <Q コンピューター会社に就職するんです Q> って言ったら.
14 <Q コンピューターは,
15 ..系やる人は.
16 神経狂っちゃう人, 多いんだよね= Q>
とか言って.

例 9 は, A と S が参加した合コンに同席していた「おじさま」と言われる男性の性格を話題にしている. S (09) の「なんか」は, S による「おじさま」に対する評価を導く前置き表現であると説明できる. ここで,「なんか」で評価が導かれたのは, その内容が「おじさま」に関するそれまでの話に照らせば新しい側面にあたり, その部分を際立たせているからである.

以上 6 つの機能は, いずれも聞き手にとって新しい内容を後に伴い, Onodera (1995) がディスコースマーカーの定義にあげた話し手の判断や態度, 会話維持のための話し手の行為を示している. そこから, 前置き表現「なんか」はディスコースマーカーだと結論づけられる.

6. 考察

前章の分析から, 現代日本語の会話に見られる「なんか」には, 代名詞や副助詞の用法に加え, 聞き手にとって新しい事柄 (new concept) を従えた前置きのディスコースマーカーとしての用法もあることを明らかにした. では, このディスコースマーカーはどこから生じたのだろうか. そのことを「『な

代名詞「なんか」

↓

【「不明確な事柄を後に従える」という意味を類似として持ち込む（メタファー的関係）】

↓

"propositional" (ibid.)：不特定な事物や事態を明示する

↓← 副助詞「なんか」

【「取り立て」の意味を部分として持ち込む（メトニミー的関係）】

↓

"textual" (ibid.)：後続の発話全体を不明確なものとして際立たせ，直前の内容につなげる
※ ディスコースマーカー「なんか」：「話題開始」「話題の発展」「発話内容の具体化」「次の部分へのつなぎ」

↓

"expressive" (ibid.)：後の新たな事柄に対する話し手の態度や判断などを暗に含む
※ ディスコースマーカー「なんか」：「引用」「話題対象への評価」

図 1: ディスコースマーカー「なんか」の文法化の過程

んか』+ new concept」の構造と，「文法化の過程」(cf. Traugott:1982) から考察する．

6.1. 「なんか」+ new concept

前置きのディスコースマーカー「なんか」が持つ「『なんか』+ new concept」という構造は，先にあげた「なんか」の 6 つの機能をふまえると，(1)「何かその後に新しく言いたいことがある」(2)「話題になっている事柄のうち，それまでの話の流れからは予測できない事柄を際立たせる」という 2 つの側面を示していると考えられる．

このうち前者は，語句に関する不明確さを表す代名詞「なんか」との間に，不明確な事柄を後に従えるという点で，類似の関係，即ちメタファー的関係が見いだせる．

一方，後者は，副助詞「なんか」が持つ「言語表現として取り立てられていない事柄との対比を暗示的にでも行いつつ，ある事物を取り立てて例示する」(cf. 寺村:1981) という意味を「全体」とするなら，「取り立て」の所を「部分」として強調している点で，部分と全体の関係，つまりメトニミー的関係が動機づけになっている．

6.2. 文法化の一方向性

Traugott (1982) は「文法化の過程」で，1 つの言語表現はその内容について語る "propositional" (1982:248) からディスコース全体の一貫性を生み出す "textual" (ibid.) を経て，発話内容への個人の態度や判断などを示す "expressive" (ibid.) へと文法化が行われることを指摘した．

ここにディスコースマーカー「なんか」が出現する過程を重ね合わせたのが上の図 1 である．

図 1 から，ディスコースマーカー「なんか」は，代名詞や副助詞の影響を受けたことにより，後続の「不明確な内容」を「際立たせる」前置き表現に文法化していったと言うことができる[6]．

7. おわりに

本稿では，前置き表現「なんか」は，決して「口ぐせ」などではなく，聞き手にとっての新情報を後ろに伴うディスコースマーカーであることを示した．また，ディスコースマーカー「なんか」は，代名詞からのメタファーと副助詞からのメトニミーを経て，直後の発話全体を不明確なものとして際立たせたり，直後の不明確な部分に対する自らの態度や判断などを暗に含んだりする表現に文法化していったことを明らかにした．

以上の結論は，なぜ「なんか」が前置き表現としても機能するようになったのかが，より具体的な形で表れたものと言えよう．

注

1. 本稿は，内田 (2000) に加筆修正を施したものである．
2. Transcription convention (cf. Du Bois et al. 1993:88-89)

   Transitional continuity

   . : final , : continuing ? : appeal

   = : Lengthening

   Pause ... : medium .. : short

   @ : Laughter <@ @> : Laugh quality

   <Q Q> : Quotation quality
3. Hopper and Traugott (1993:xv) に倣い，語彙項目やその構造が特定のコンテクスト内で文法的な機能を果たすようになる過程と定義する．また，一度文法化したら，それはより新しい文法的機能を展開させると考える．
4. 鈴木 (2000:66) は，「なんか」が持つ機能として「意味論的機能」・「語用論的機能」・「談話調整機能」をあげ，それぞれを以下のように定義している．

   意味論的機能：発話の命題内容に直接関わる，語の言語内での働き．

   語用論的機能：発話者の意図，発話者と発話内容の関わり方など，言語外の要素を反映し，メタメッセージを伝える語の働き

   談話調整機能：コミュニケーションを円滑に進めるための語の働き
5. 本稿でのデータと参加者は以下の通りである．題目は，各データで中心となった話題からとっている．なお，調査者は話題指定や目的の伝達を行っていない．

   Letters (Y:20 代，女性; H:20 代，女性), Suspicious Experience (C:20 代，女性; E:20 代，女性). A Party with Ojin (A:20 代，女性; S:20 代，女性; M:20 代，女性). Junior High School (H:10 代，男子; R:10 代，男子; T:10 代，男子; K:10 代，女子; N:10 代，女子; I:20 代，女性). Internet (A:20 代，女性; M:20 代，女性; S:20 代，女性; T:20 代，女性), New Year's Cards (K:20 代，男性; S:20 代，男性). Wedding (C:20 代，女性; K:20 代，女性; Y:20 代，女性; N:20 代，女性; R:20 代，女性). Hot Spring (J:20 代，男性; N:20 代，男性; T:20 代，男性). Australia (A:20 代，女性; M:20 代，女性; S:20 代，女性; F:20 代，女性). Karaoke (H:10 代，男子; M:10 代，男子)
6. 「なんか」の文法化，とりわけ前置き表現としても使われる理由を考える際に，「なんだか」や「なぜか」など，不確実なものを率いていて，しかも音声的に類似している副詞からの影響を考慮することは有益であると思われるが，紙面の都合上，次稿に譲りたい．

参考文献

Chafe, Wallace 1987 Cognitive constraints on information flow. In Tomlin, Russel (ed.) *Coherence and grounding in discourse*. 21-51. Amsterdam: John Benjamins.

-------- 1994 *Discourse, consciousness, and time*. Chicago: The University of Chicago Press.

Du Bois, John W.; Stephan Schuetze-Coburn; Susanna Cumming and Danae Paolino 1993 Outline of discourse transcription. In Edwards, Jane A. and Martin D. Lampert (eds.) *Talking data: Transcription and coding methods for discourse research*. 45-89. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

Halliday, M. A. K 1994 *An introduction to functional grammar* London: Arnold (second edition).

Hopper, Paul J. and Elizabeth Closs Traugott 1993 *Grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.

Onodera, Noriko Okada 1995 Diachronic analysis of Japanese discourse markers. In Jucker, Andrea H. (ed.) *Historical pragmatics: Pragmatic developments in the history of English*. 393-437. Amsterdam: John Benjamins.

鈴木佳奈 2000 「会話における『なんか』の機能に関する一考察」『大阪大学言語文化学』9: 63-78.

田窪行則・金水敏 1997 「応答詞・感動詞の談話的機能」音声文法研究会（編）『文法と音声』257-279, 東京：くろしお出版

寺村秀夫 1981 「ムードの形式と意味 (3) - 取立て助詞について -」『文藝言語研究 言語篇』6: 53-67.

Thompson, Sandra A. and Anthony Mülac 1991 A

quantitative perspective on the grammaticization of epistemic parentheticals in English. In Traugott, Elizabeth C. and Bernd Heine (eds.) *Approaches to Grammaticalization, Volume* 2, 313-329. Amsterdam: John Benjamins.

Traugott, Elizabeth Closs 1982 From propositional to textual and expressive meanings: Some semantic-pragmatic aspects of grammaticalisation. In Lehmann, Winfred P. and Yakov Malkiel (eds.) *Perspectives on historical linguistics*, 245-271. Philadelphia: John Benjamins.

-------- 1989 On the rise of epistemic meanings in English: An example of subjectification in semantic change. *Language* 65: 31-55.

内田らら 2000 「会話に見られる『なんか』と文法化：なぜ『なんか』は『前置き表現』になりえるのか？」日本言語学会第 120 回大会 口頭発表

日本大辞典刊行会（編）1975 『日本国語大辞典』（第 15 巻） 東京：小学館

1999 『現代用語の基礎知識』 東京：自由国民社

1987 『新明解国語辞典』（第 3 版） 東京：三省堂